



TITLE:

## 研究会紹介

AUTHOR(S):

---

CITATION:

研究会紹介. CIAS discussion paper No.27 : ジャウイを学ぶ --ジャウイ  
文献購読テキスト 2012年度版 2012, 27: 120-127

ISSUE DATE:

2012-12

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/228538>

RIGHT:

© Center for Integrated Area Studies (CIAS), Kyoto University

## 「ジャウィ文献と社会」研究会の活動

### 「ジャウィ文献と社会」研究会について

「ジャウィ文献と社会」研究会は、旧ジャウィ文書研究会(2001-2009)の活動の蓄積を活用・発展させるため、旧ジャウィ文書研究会の活動の一部を受け継いで組織された研究会です。主にマレー・インドネシア語のジャウィ文献を利用して、ジャウィ文献に関わる社会を対象に研究を行っています。

この研究会は、これまで研究にあまり活用されてこなかったジャウィ文献を積極的に使うことで、ジャウィ文献が書かれ、読まれていた社会の様子を明らかにすることを目的としています。

ジャウィ (Jawi) とは、アラビア文字を改変したマレー・インドネシア語の表記法です。東南アジアのマレー・インドネシア語圏（現在の国名で言うと、おおよそマレーシア、インドネシア、シンガポール、ブルネイ、そしてタイの一部がカバーする範囲）では、長いあいだジャウィが書き言葉として使われていました。20 世紀に入るとマレー・インドネシア語のローマ字による表記が広く使われるようになり、20 世紀後半になると公文書や一般の文書ではマレー語が使われることが多くなりますが、その後もジャウィは一部で用いられ、今日に至っています。

この研究会は、1950 年代から 60 年代にかけてシンガポールで発行されていた月刊誌『カラム』をローマ字に翻字して内容を分析する「『カラム』の時代」プロジェクトと、ジャウィを読むための講習会を一般公開で行うジャウィ文献講読講習会の 2 つを中心に活動しています。

次ページ以降では、『カラム』をはじめとするジャウィ定期刊行物のデータベース化による資料共有化について紹介します。

### 関連する研究プロジェクト

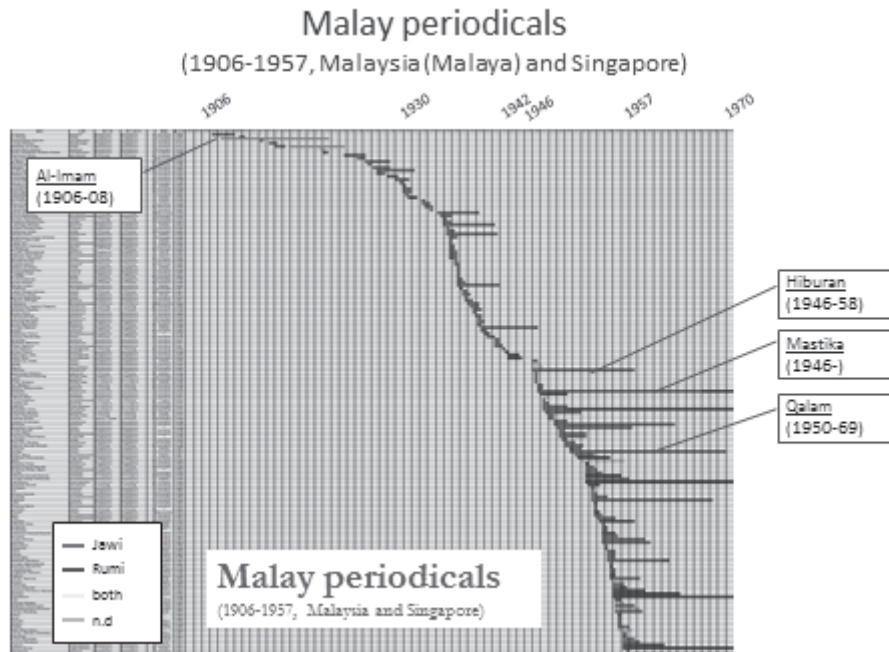
「ジャウィ文献と社会」研究会は、京都大学地域研究統合情報センター共同研究「島嶼部東南アジアにおける国民国家形成とマレー・ムスリムのネットワーク」（代表：坪井祐司、2012 年度）との共催により活動しています。

また、『カラム』の記事データベース化およびローマ字翻字では、京都大学地域研究統合情報センターの地域情報学プロジェクト雑誌記事データベース班と共同で研究を進めています。

## ジャウィ文献記事データベース

### 20 世紀のマレー語定期刊行物

下の図は、20 世紀前半にマラヤとシンガポールで刊行されたマレー語の定期刊行物を刊行が早い順に並べたものです。一番上にあるのは「アル・イマーム」(al-Imam)で、1906 年に創刊され、1908 年まで刊行が続きました。



図の横棒の長さは、それぞれの雑誌が刊行されていた期間を示しています。また、カラー印刷でないのでわかりにくいですが、横棒の色は、その雑誌に使われていた文字を示しています。緑色はジャウィ、赤色はローマ字、黄色は両方です。

この図を見るといろいろなことがわかります。20 世紀初頭のマレー語雑誌のほとんどはジャウィで書かれており、ローマ字が増えるのは日本占領期を経た 1946 年以降であること。ほとんどの雑誌は短命で、創刊から 1、2 年で停刊になっており、10 年以上続く雑誌は数えるほどしかないこと。しかし、1 つの雑誌が停刊になると別の雑誌が創刊され、日本占領期を例外として、どの期間をとってもマレー語雑誌が刊行されていない時期はなかったこと。

また、この図だけからはわかりませんが、いくつかの雑誌を読んでもみると、異なる雑誌どうしで互いに参照したり批判したりしていることもわかります。

これらのことから、マレー語の雑誌は、1つ1つのタイトルを見ると短命でも、複数の雑誌が集まって全体で「マレー語雑誌」という1つの言論の場を作っていたことがわかります。

そうだとすれば、1つの雑誌だけ取り出して読むだけでは、その雑誌が出されていた時代の様子を知るには不十分だということがわかるでしょう。

ただし、複数の雑誌を通して読むのは容易なことではありません。図書館などに雑誌が体系的に集められているとは限らないためです。

### ジャウィ雑誌記事データベース

この問題を解消する1つの方法は、マレー語雑誌をデジタル化して、記事内容や本文で検索可能な状態にしたものを作り、それをインターネット上で横断検索するシステムを作ることです。この方法は、いくつもの利点があります。第1号から第10号まではこの図書館、第11号から第20号まではあの図書館に所蔵されているというように分散して所蔵されている資料でも、インターネット上で統合して参照することが可能になります。また、この方法では各機関や個人によって所蔵されている資料を物理的に収集する必要がないため、資料をもととの所有者のもとに置いたまま参照することが可能です。

この研究会では、そのような横断検索システムのプロトタイプを作るため、京都大学地域研究統合情報センターの地域情報学プロジェクトとの連携により、20世紀のマレー世界における主要なマレー語雑誌を収集し、デジタル化を進めています。これまでにシンガポールの『カラム』（Qalam）とインドネシアの『ワクトゥ』（Waktu）のデジタル化を進めてきました。このほかに以下の雑誌を収集し、デジタル化する準備を進めています。

- Jawi Peranakan
- al-Munir
- al-Imam
- Pengasoh
- Hiburan
- Dian
- Mastika



CIAS Database: <http://www.cias.kyoto-u.ac.jp/database/>

## 『カラム』の時代

### 『カラム』とアフマド・ルトフィ

『カラム』(Qalam)は、1950～69年にシンガポール(後にマレーシア)で刊行されていたマレー語の月刊誌です。創刊から停刊まで、記事は一貫してジャウィで書かれていました。

『カラム』の特徴は、マレー世界におけるムスリムの政治運動の「空白期間」を埋める資料であることです。例えばマラヤでは、20世紀初頭の独立準備期にイスラム主義を掲げる政治団体がいくつか結成されましたが、それらは1950年までに非合法化され、指導者は投獄されたり国外に退去したりしました。



従来の研究では、これによりマラヤ(後にマレーシア)のイスラム主義政治運動はいったん姿を消し、その後の1970年代にダクワ運動によってイスラム主義運動がマレーシアにもたらされたとされています。このように、1950年代と60年代はイスラム主義運動の観点から研究の空白期になっており、『カラム』はこの時期のマラヤ／マレーシアのムスリム社会のあり方を知る貴重な資料です。

『カラム』のもう1つの特徴は、『カラム』が民族や国境を越えてムスリム社会をつなごうとしていたことにあります。これは、『カラム』の発行者・編集者であるアフマド・ルトフィ(Ahmad Lutfi)の経歴と密接に関係しています。

アフマド・ルトフィは、1911年にカリマンタン島でアラブ系ムスリムである両親のもとに生まれ、民族の区別によらずムスリムはみな同胞であると教えられて育てられました。しかし、20世紀初めのマレー世界では民族意識が高まり、同じムスリムでもアラブ系と原住民系は違うとの見方がされるようになりました。これに対してアフマド・ルトフィは、シンガポールに渡ってジャーナリズムに身を投じ、自ら発行した『カラム』の誌面を通じて民族別の同胞意識ではなく宗教に基づいた同胞意識を育むようマレー世界の人々に呼びかけました。

マラヤ(現マレーシア)とインドネシアは独立以降は政治的にそれぞれ別の道を歩みますが、その裏で民族や国民の違いによらずに宗教による同胞意識を訴え続けたのが『カラム』でした。1956年にシンガポールでムスリム同胞団が結成されると、『カラム』はその事実上の機関誌となりました。



## 『カラム』翻字プロジェクト

『カラム』は、1950年代～60年代のマレー世界におけるムスリム社会の動向を理解するうえで重要な史料ですが、ジャウィで表記されているためもあり、利用可能な研究者が限られていました。

また、『カラム』は複数の機関に分散して所蔵されており、体系的に利用するのが難しい状況にありました。京都大学地域研究統合情報センター（京大地域研）では、複数の機関に所蔵されている『カラム』をもとに欠号率が極めて低いコレクションを作り、デジタル化してマレー語雑誌記事データベースとして全誌面を公開しています。

この研究会では、『カラム』の記事のローマ字翻字を進め、『カラム』をより多くの研究者や読者に利用可能な形にします。また、『カラム』の記事をもとに、1950年代から60年代にかけてのマレー世界の「近代」の諸相を明らかにすることを試みます。

なお、京大地域研で公開されている『カラム』記事データベースは記事見出しだけが検索可能ですが、この翻字プロジェクトによって本文の全文検索も可能になります。研究会 HP では、この研究会で翻字したローマ字版『カラム』を順次公開しています。

## transcribing from Jawi to Latin



## ローマ字版『カラム』

### ウェブ版

- 以下の研究会ホームページで順次公開

<http://www.cias.kyoto-u.ac.jp/~yama/jawi/qalam.html>

## 冊子体

- 『Qalam No.42-47 1954.01～1954.06』（山本博之監修、京都大学地域研究統合情報センター、2012 年 11 月刊）
- 『Qalam No.36-41 1953.07～1953.12』（山本博之監修、京都大学地域研究統合情報センター、2012 年 9 月刊）
- 『Qalam No.30-35 1953.01～1953.06』（山本博之監修、京都大学地域研究統合情報センター、2012 年 8 月刊）
- 『Qalam No.24-29 1952.07～1952.12』（山本博之監修、京都大学地域研究統合情報センター、2012 年 7 月刊）
- 『Qalam No.18-23 1952.01～1952.06』（山本博之監修、京都大学地域研究統合情報センター、2012 年 6 月刊）
- 『Qalam No.12-17 1951.07～1951.12』（山本博之監修、京都大学地域研究統合情報センター、2012 年 4 月刊）
- 『Qalam No.6-11 1951.01～1951.06』（山本博之監修、京都大学地域研究統合情報センター、2011 年 12 月刊）
- 『Qalam No.1-5 1950.07/08～1950.12』（山本博之監修、京都大学地域研究統合情報センター、2011 年 11 月刊）



## 『カラム』を用いた研究

この研究会では、研究会メンバーがそれぞれの関心に基づいて『カラム』の記事を読み、当時のマレー世界の社会状況を明らかにする『『カラム』の時代』研究を進めています。これまでの研究成果は以下の通りです。

### 『カラム』の時代

- 『『カラム』の時代 III—マレー・イスラム世界におけるイスラム的社会制度の設計』(坪井祐司・山本博之編著、CIAS Discussion Paper No.23、京都大学地域研究統合情報センター、2012 年 3 月刊)

1. 「序 『カラム』の時代 3—マレー・イスラム世界におけるイスラム的社会制度の設計」(坪井祐司)
2. 「近代イスラームにおける家族像——連載記事「女性の世界」の分析から」(國谷徹)
3. 「1950 年代前半のマラヤ情勢とアフマド・ルトフィ」(坪井祐司)
4. 「エジプト留学生在論じたマレー社会の再建——ズルキフリ・ムハンマドにみる 1950 年代のマレー人知識人の思想の系譜」(山本博之)
5. 「マレー・コミュニティにおける国民教育制度に関する議論」(金子奈央)
6. 「1950 年代の「強制婚」論議にみるカラム誌の改革論理」(光成歩)



- 『『カラム』の時代 II—マレー・イスラム世界における公共領域の再編』(坪井祐司・山本博之編著、CIAS Discussion Paper No.19、京都大学地域研究統合情報センター、2011 年 3 月刊)

1. 「序 『カラム』の時代 2—マレー・イスラム世界における公共領域の再編」(坪井祐司)
2. 「連載記事「クルアーンの秘密」に見るイスラーム近代主義：予備的考察(2)」(國谷徹)
3. 「シンガポールのマレー・ムスリムからみたナドラ問題」(坪井祐司)
4. 「連載記事「ムスリム同胞よ、今こそ団結せよ！」」(山本博之)
5. 「公教育確立期におけるイスラーム教育の生き残り戦略」(金子奈央)
6. 「社会再編の時代の婚姻・離婚法制——1957 年シンガポールのムスリム法令による改革」(光成歩)



- 『『カラム』の時代—マレー・イスラム世界の『近代』』(山本博之編著、CIAS Discussion Paper No.13、京都大学地域研究統合情報センター、2010 年 3 月刊)

1. 序 『カラム』の時代—マレー・イスラム世界の「近代」、1950～1969 年 (山本博之)
2. コラム「祖国情勢」に関するノート (坪井祐司)
3. 連載記事「クルアーンの秘密」に見るイスラーム近代主義：予備的考察 (國谷徹)





4. 選挙と反乱——インドネシアの 1955 年総選挙とイスラム国家建設（山本博之）
5. 公教育の近代化に対する二重の危機感——マレー・コミュニティにおける子どもの教育論から（金子奈央）
6. シンガポールにおけるイスラーム司法の制度化——1960 年ムスリム法施行法案の廃案をめぐって（光成歩）

#### 『カラム』を使った研究

- TSUBOI Yuji. 2012. “Muslims under Dual Jurisdictions: The Nadrah issue from the perspective of “Qalam””. FUKAMI Naoko & SATO Shohei. (eds.). *Islam and Multiculturalism: Between Norms and Forms*. Organization for Islamic Area Studies, Waseda University. pp. 157-165.
- KUNIYA Toru. 2012. “Islam in the era of “kemajuan”: modernist thought of a Singaporean ulama in the 1950s”. FUKAMI Naoko & SATO Shohei. (eds.). *Islam and Multiculturalism: Between Norms and Forms*. Organization for Islamic Area Studies, Waseda University. pp. 167-170.
- YAMAMOTO Hiroyuki. 2009. “The Jawi Publication Network and Ideas of Political Communities among the Malay-Speaking Muslims of the 1950s”. *The Journal of Sophia Asian Studies*. No.27. pp.51-64.
- 山本博之 2003 「東南アジアにおけるムスリム同胞団の成立とその初期の活動について」『ODYSSEUS』（東京大学大学院総合文化研究科）、第 7 号、pp.59-73。

#### 『カラム』に関する研究

- 山本博之 2002 「資料紹介『カラム』『上智アジア学』、第 20 号、259-343 頁。